

残された時間を

今から遡ること二十数年（？）前…私は大学を卒業しました。その時、先生がかけてくれたことばが今でも印象に残っています。『十年一昔と言うが、私は十年一仕事だと思っている。』その時はよく分かりませんでした。おそらく、一つの仕事を満足にし終えるには最低でも十年はかかる、という意味だったと、私なりに解釈をしています。節目と捉えられるじゅうねんという年月。境木中に転勤してきた頃の自分に、何を語りかけようか…（まさかこんな一年が訪れるとはあの時想像すらしていませんでした）そして、2011.3.11からの十年。どんな時でもあの悲劇を忘れなかったかと問われたら、頷くことはできません。だからこそ思いを巡らせることで家族や友達、大切な人たちに何かを伝えたい、そう考えている自分がいつもいます。三年生を送る会のメッセージは、在校生の思いが見事に形となって伝わった、おおいなる境木中の伝統だと感じました（裏方さんたちの頑張りも忘れないでくださいね）。届けられた贈り物が一つずつ紡がれて、いよいよ53回目となる、卒業証書授与式の朝があけようとしています。今、皆さんの胸に去来するものは何ですか？夢ですか？希望ですか？より深く思うほど、私の胸には命の尊さが響いてきました。夜空に描く、157の笑顔を想う今、折り皺のない『永訣』を読み返しています。明日がいい日でありますように・・・

生徒指導専任より

